



ピーポー



SATSUMA FIRE DEPT. Emergency Public relations paper

発行 さつま町消防本部 令和6年9月
鹿児島県薩摩郡さつま町時吉366番地
Tel 52-0119 Fax 53-0119

救急車・消防車の緊急走行に対する ご理解とご協力をお願いします

近年、自動車の気密性の向上に伴い遮音性も高くなったことで、緊急自動車の接近に気付いてもらえずスムーズな緊急走行が出来ない場面が増えています。

緊急自動車が接近してきた場合の対応は、
道路交通法で次のように定められています。

緊急自動車の優先

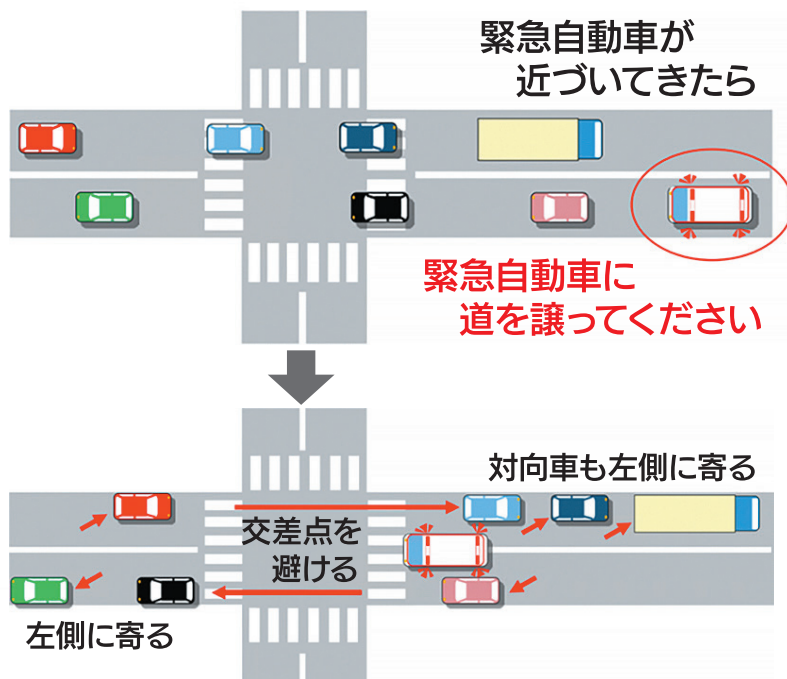
道路交通法 第四十条 (抜粋)

■交差点又はその付近の場合

交差点を避け、かつ、道路の左側に寄って
一時停止しなければならない。

■交差点又はその付近以外の場合

道路の左側に寄って、緊急自動車に
進路を譲らなければならない。



見通しが良い場所で停車

カーブや登坂の頂上付近では、見通しが悪く反対車線の走行が危険なため、可能な限り直線等の見通しが良い場所まで走行してから停車をしてください。

急ブレーキをかけない

緊急自動車に気づき、急ブレーキで停車をすると後続車に追突される危険がありますので、ルームミラーで後方を確認し、ゆっくりと停車をしてください。

音声マイクでの誘導

道路状況などにより、安全に道をお譲りいただくために音声マイクで誘導させていただく場合があります。その際は誘導に従ってお譲りください。



「緊急走行」している車両の先には、助けを待つ人の「命」がかかっています。その「命」を一秒でも早く救うため、緊急走行している救急車や消防車に安全に道を譲っていただきますよう町民の皆様のご協力をお願いします。

こんな時 どうする？

大量出血

私たちの身体の中を流れる血液の量は
体重の約7～8%と言われています。

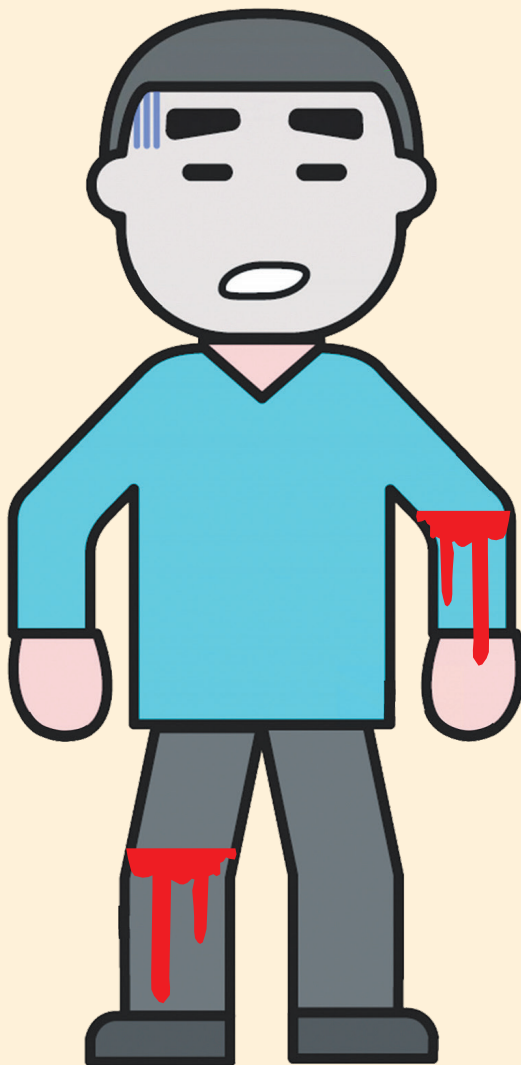
体重60kg 成人の場合
血液量は約5リットル

その血液の20%が急速に失われると
「ショック」という重篤な状態になり、
30%を失うと生命に危険を及ぼすといわれています。

体重60kgの人の場合
20% 約1リットルで重篤
30% 約1.5リットルで生命に危険

出血量が多いほど、止血手当を
迅速に行う必要があります。

止血法としては、出血している部位を
直接圧迫する「**直接圧迫止血法**」が
基本となります。



参考

ショックとは、全身の血のめぐりが悪くなった状態をいいます。

出血により体の中の血が少なくなることでも生じます。

ショックの症状

- ・目はうつろとなります
- ・表情はぼんやりしています
- ・唇が白か紫色になります
- ・皮膚は青白くなります
- ・皮膚は冷たくなります
- ・呼吸が浅く速くなります
- ・体がこきざみに震えます
- ・冷や汗が出ます

※主な症状ですが、同時にすべてがみられるわけではありません。

直接圧迫止血法

- ①出血部位を確認する
- ②出血部位を圧迫する

綺麗なタオル、ハンカチ、ガーゼなどを出血部位に当て、その上を指先や手のひらで強く圧迫します。

大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても血が止まらないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血をします。



ポイント

- 感染防止のため血液に直接触れないように、ビニール製やゴム製の手袋またはビニール袋を使用します。
- 出血を止めるために手や足を細い紐や針金などで縛ることは、神経や筋肉を損傷する恐れがあるので行いません。

大量に出血している場合や、出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合は、ただちに「119番」通報してください。